

令和2年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	みんながくらす みんなでくらす を考えるためのワークショップ
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 准教授・佐藤ゆかり、教授・藤井和子、 准教授・留目宏美
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越市教育委員会 (担当者職名・氏名)
4 事業活動報告	<p>本事業は以下の通り行った。</p> <p>第1回：『障害者の災害対策チェックキット』を用いた授業等のためのファシリテーション講座 実施日時：2020（令和2）年10月23日（金）13:00～16:00 実施場所：上越教育大学講義棟201教室 対象人数等：10名（学校教職員等授業等で『障害者の災害対策チェックキット』を用いた授業等を行う可能性のある者） 参加人数：4名（本学大学院生1名を含む） 協力者：障害者の災害対策チェックキットファシリテーション認定講師：木村直紀氏（株式会社おかのて代表） 実施内容等：Zoomによる『障害者の災害対策チェックキット』を用いた授業等のためのファシリテーション講座を開催した。 当日は13:00 挨拶・趣旨説明、13:10 から要支援者の防災に関する知識提供、14:00～16:00 安心防災帳ワークショップ運用体験、質疑応答・まとめの流れで行った。</p> <p>第2回：『障害者の災害対策チェックキット』を用いたワークショップ 実施日時：2020（令和2）年11月7日（土）14:00～16:00 実施場所：上越教育大学講義棟201教室及びZoom 対象人数等：25名（Zoom参加10名、会場参加15名：障害のある児童生徒や保護者、地域の学校教職員等、学生等） 参加人数：11名（Zoom参加1名を含む） 協力者：宮腰一樹氏（上越 ナディアの会代表） 実施内容等：『障害者の災害対策チェックキット』を用いたワークショップ 当日は13:00 挨拶・趣旨説明、13:10 から要支援者の防災に関する知識提供、14:00～16:00 安心防災帳ワークショップの流れで行った。 当日の会場参加者は10名。会場には、ご自身が車椅子ユーザー、そして上越市で活動をされているナディアの会の宮腰さん、そして、途中からは、熊本の特別支援学校の橋本紗貴先生に会の様子をZoomで見てください、災害に関する日常の備えなどのコメントをいただいた。</p>

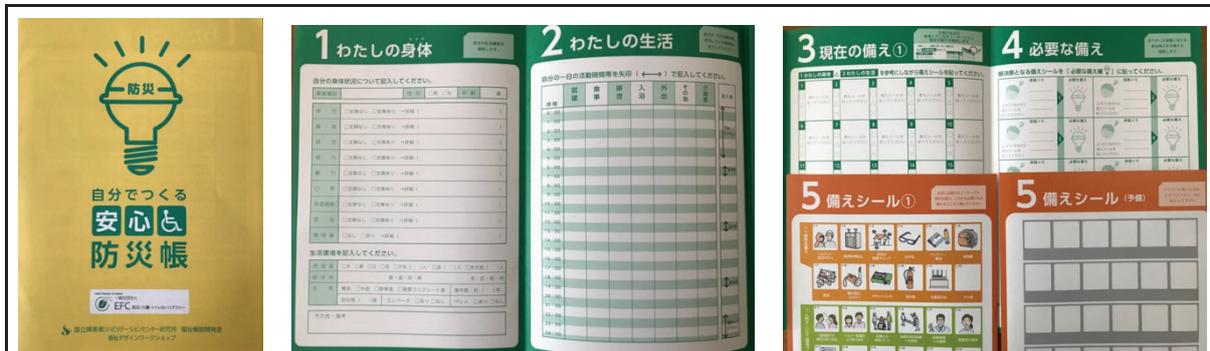
<p>5 本事業で得られた成果</p>	<p>参加者からは「障害のある方が暮らしやすくなることで、みんなが暮らしやすくなるので、防災からいろいろなところに広げて考えていきたいと思った」「このような機会が学生、教職員、地域の方にも経験していただきたいと思いました」「災害対策や日常の備えを考える契機になりました」などの感想が寄せられた。</p> <p>会場で、そしてオンラインで、当事者が思うこと・考えること、そして当事者がもつ知識や備え等を共有することで、「みんながくらす」「みんなでくらす」の学びの深まり感じられるとともに、これらを教育と研究いかすことの必要性が改めて確認された。</p>
<p>6 その他(成果物等の名称)</p>	<p>本事業の内容は日本教師教育学会特別課題研究Ⅰ「防災・学校安全と教師教育」報告書に掲載予定である。</p>

日本教師教育学会報告書掲載予定から一部を抜粋

(2) 第2回「防災帳」の作成を取り入れたワークショップ

要支援者の防災に関する知識提供、「防災帳」作成等の順に行った⁵（資料2）。

資料1「防災帳」の概要



「防災帳」は国立障害者リハビリテーションセンター福祉機器開発部福祉機器開発所により、防災のための備えを考えるプロセスをキットにより支援することを目指して開発されたものであるという。上の図左は「防災帳」の表紙である。内容は図中央の「1 わたしの身体」「2 わたしの生活」、図右「3 現在の備え」「4 必要な備え」の4プロセスによりなる。「1 わたしの身体」では、自分の現在の状況に適した備えを整理するために、生活環境・身体状況の把握がなされる。「2 わたしの生活」では、主な1日の活動を記入しながら、自分の生活に必要な機器や介助に関する把握がなされる。「3 現在の備え」では、自分自身の生活に必要なモノやサービスとそれに関する現在の備えの状況の把握がなされる。この把握は図(3)の「5 備えシール」を用いる。「5 備えシール」は「①一般的な備え」「②人的サービス・関係づくり」「③コミュニケーション・情報収集」「④移動・交通」「⑤飲食・健康・排泄」「⑥避難所・公共施設」からなる。また、生活は個性を伴うものであることから、予備の備えシールが準備されている。

資料2 ワークショップの概要

時間	内容	
25分	1 要支援者の防災に関する知識提供	(1) 災害の基礎知識 1) 災害の種類 2) ハザードマップ 3) 避難所 (2) 障害者と要支援者支援の基礎知識 1) 障害の種類 2) 障害者支援の概要 3) 障害者の自助の備えの概要
	2 「防災帳」の作成	(1) 「防災帳」の作成 1) わたしの身体シートの記入 2) わたしの生活シートの記入 3) 現在の備えの確認 4) 備えの課題をみつける 5) 課題を解決するための備えを考える 6) 備えリストの完成 (2) まとめ 1) 当事者の経験を聞く 2) WSを通して考えたことを話す

資料3 災害の知識に関する資料



資料3 ワークショップの様子と感想

- ・災害対策を考えるよい機会になった。
- ・自身にも障害があるので、今、自分のできる備えを明確にし、実践していきたい。

・災害のあった時を想定し、どのような備えが必要か、また障害を持った人に対し、どのようなサポートができるか、考えるいい機会となった。

・障害のある方が暮らしやすくなることで、みんなが暮らしやすくなるので、防災からいろいろなど広げて考えていきたいと思った。等

⁵ 第1回ワークショップの内容を踏まえて構想し、実施した。